



令和6年の新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

今号の内容は主に、令和5年第4回定例会(令和5年12月議会)において、11月12日に執行されました八幡市長選挙で、第7代八幡市長に就任されました川田翔子市長に、選挙時、訴えてこられました公約等について質問を行い、各施策について意見を述べました。その内容を抜粋してお届けいたします。

まだまだ、寒さ厳しい毎日が続くと思われませんが、ご自愛いただけますようご祈念申し上げます。

令和5年 第4回 定例会 一般質問

「産業振興ゾーンの企業誘致の促進」について



質問 この項目は、川田市長が訴えておられた、活力と魅力あふれるまちづくりの中のひとつであります。

本市内の産業振興ゾーンへの企業誘致は新名神高速道路をはじめ高規格道路また幹線道路の開通を活かし、雇用の創出や地域経済の活性化をはじめとして計画的な土地利用により産業機能の集積を図り、更には、交通網の面からも本市の位置づけとして確固たる存在感が発揮できるものであります。そして、その結果、財源の涵養策にも結びついてくる。と大きく期待を寄せるものであります。

これら産業振興ゾーンとして定めている地域において、現在工事中・計画中のもの。それらの業種、敷地面積そして、そ

ここに建設されるものの程度、更に完成時期について、現在の進捗状況をお聞かせください。



内里河原交差点より北西を見る

答弁 建設産業部長 産業振興ゾーン設定後内里・上奈良地区と戸津地区の2地区において市決定の都市計画である市街化調整区域における地区計画を決定し企業用地の創出を行ったところでございます。

この2地区の内里・上奈良地区は2つの区域で既存事業所の拡張が行われております。

両区域とも都市計画法に基づく開発行為に伴う造成工事が完了し、内里区域は令和6年の秋頃の

完成に向けて1万6千㎡の敷地に最高高さ17・8mで延べ床面積1万3千㎡の工場の増築工事が行われます。

上奈良地域では令和6年の秋頃の完成に向け約3300㎡の敷地に最高高さ8・7mで延べ床面積900㎡の倉庫の新築工事が行われます。戸津地区では令和9年の秋頃の完成に向け約11万平方メートルの敷地に北棟・南棟として2棟の物流施設の立地を目的とした都市計画法に基づく開発行為に伴う工事が行われているところでございます。建築物の規模といたしましては市に提出されている資料から最高高さは2棟とも約30m、延べ床面積は北棟が約7万6千㎡、南棟が約16万8千㎡です。その他としましては、久御山町に隣接する本市飛地の川口高原地区について物流施設の立地を目的とした都

市計画決定に向け京都府と協議を進めているところでございます。なお先程お示した地区以外につきましても、産業振興ゾーンの公表後、土地利用に関して複数の相談を頂いているところでございます。

質問 戸津地区の工事に伴い、水戸城川の流れを見ると、戸津の水戸城・中代の範囲では分岐と川幅が狭くなっている。国道一号線の下を流れ合流地点がある、そして戸津の南西部を通過、八幡舞台で大谷川、防賀川と合流しております。途中水路が狭くなったり合流部分があります。

回答 建設産業部長 現在、木戸口に進められております開発工事の雨水対策につきましては、京都府の「災害からの安全な京都づくり条例」に基づき

開発区域内に重要開発調整池を設置し開発区域内に降った雨はその調整池に貯められ、小さな放流口から少しずつ河川に放流する計画となっております。今以上の河川への負担はないものと考えております。これに加えて当該農地が大雨時に池の役割を果たしていたことを考慮し、市として府条例に基づき設置される調整池とは別に容量を確保するよう指導を行っております。また当該開発区域内の水戸城川及び市管理水路につきましましては、開発業者により付け替えを行うとともに計画流量を排出できるように幅広工を行う計画となっております。

質問 2つ目として、建物も大きなもの想像します。交通量も増えることが考えられます。交通対策についてお聞かせください。

回答 建設産業部長 開発事業者にて交通量調整や

それに基づく交通量予測を行うとともに、操業開始後の事業地からの車両出入りも含め、八幡警察署と交通処理に関する協議を実施され、現況の交通に支障が生じないよう計画されております。

質問 次に、新たな財源確保の分野にも関わる内容となるのですが、この分野でお伺いさせていただきます。ご答弁頂いた、それぞれの地域の開発によって、本市が得られる土地の固定資産税額の見込み額はどの程度になるのか、わかる範囲で結構ですのでお聞かせください。

回答 市民生活部長 開発後の土地の固定資産税額については、具体的な利用形態等が確定していないこと、将来の路線価格が想定できていないことから正確な試算は困難ですが令和5年度の住宅用地以外の宅地の平均価格に面積を乗じて想定固

定資産税額を算定すると内里・上奈良地区地区計画A地区約700万円、内里・上奈良地区地区計画B地区約200万円、戸津地区地区計画B地区約5700万円となります。

質問 本市の地形は、南北約8・5km。東西約6・7km面積は約24・35km²でその北部に石清水八幡宮駅また橋本駅が鉄道駅としてあり、その駅を拠点とする民営バス会社によるバス路線として、タクシーも鉄道駅近くで待機をする。南方に隣接する京田辺市にはJR松井山手駅を起点としさらには西に隣接する枚方市の樟葉駅を起点とする民間路線バスが幹線道路をまた生活道路を縦横無尽に網羅されております。それに加えて公共施設を中心に

川田新市長に問う！ 「移動しやすい公共交通」について

主なバス停留所とする「コミュニティバスやわた」が民営路線バスと路線を重複しないように設定されています。一方では、橋本地区のコマンド交通も市民の日常の移動手段を支えています。



コミュニティバスやわた

います。

この「コミュニティバスやわた」の運行に関わる経費は、市の負担額として平成29年度までは3千万円を下回る金額であったものが平成30年度には約3755万円、令和2年度には約5019万円、そして令和3年度は約5244万円更に令和4年度には5372万円となり運行開始時からみますと、倍額とはいかなくともそれに近い負担額となっております。これらの理由としては

全国的に課題となっているバスのドライバー不足と高齢化を掲げられておられます。コミュニティバスの計画策定の背景としては、人口減少や少子高齢化が進むなか、本市の上位計画に則りコンパクトシティプラスネットワークの形成に向け公共交通の存続が課題となり、交通弱者が移動を制限させ

られる事により住民の日常移動に支障が生じる。

常移動に支障が生じる。などが理由として持続可能な公共交通を構築するため、令和4年3月に八幡市地域公共交通計画の策定が行われました。尚そのバス停への徒歩圏域は半径300mを圏域として設定されており、居住地のほぼ全域をカバーしています。と徒歩圏域には記されています。

以上のとおり、本市には鉄道をはじめ民営バス会社による路線さらには「コミュニティバスやわた」そして、タクシーも鉄道駅近くで待機をする。という環境の中、川田市長におかれましては、全ての世代が健康でくらしやすいまちづくりの一つとして「移動しやすい公共交通の充実」を訴えておられました。

そこで、この「移動しやすい公共交通」とはどのようなことを目指しておられるのか、そのお考

えをお聞かせください。

回答 川田翔子市長 移動しやすい公共交通の充実につきましましては、全ての世代の方が健康で暮らしやすい街の実現に向けた取り組みの一つとして掲げております公共交通が衰退すれば、交通弱者の移動が制限されるなど住民の日常移動に支障が生じ、結果的に地域の活力が衰退することになります。このことから公共交通を維持し充実を図ることは大変重要であると認識しております。一方で、

少子高齢化や新型コロナウイルス感染症や国際情勢の影響に伴う人件費や燃料費の高騰や構造的な運転士不足など、本市の公共交通を取り巻く環境も大きく変化しておりますことから、課題解決に向けた公共交通会議で議論いただき施策に取り組みでまいりたいと考えております。

少子高齢化や新型コロナウイルス感染症や国際情勢の影響に伴う人件費や燃料費の高騰や構造的な運転士不足など、本市の公共交通を取り巻く環境も大きく変化しておりますことから、課題解決に向けた公共交通会議で議論いただき施策に取り組みでまいりたいと考えております。



よりかす ビジョン 高齢になり車の運転が出来なくなり、バスを利用しようと思った時には、利用しようとする身近なバスの乗車人数が少なくなってしまうと、既

その路線が廃止になっているかもしれないがそれでも遅いです。そこで、地域の移動に関する最適化を考えるには、「みんなの希望のなかで折り合いがつくこと」によって多人数で1台のバスを利用する。そして、「そのことによって多くの人が共通の目的地を目指すことになる」。その結果として公共交通として成立する。乗ってみたら意外と便利。個人的な見解ですが、
・バスの時刻表に合わせる。
・少し遠回りをしてその景色を楽しむ余裕を持つ。
・目的地へのドアtoドアを望まない。
・歩くことを楽しむ。
公共交通という資源を活用して目的地に向かう。このことが、「モビリティマネジメント」ではないかと思

ます。

また、産業振興ゾーン誘致に際して、お勤めになられる方へのアクセスの確保はその企業にとってみて、重要な事と推測いたします。そこで、路線バスやコミュニティバスなどを通勤の為に公共交通手段として整備し、提供体制を事前

に検討することも受け入れる自治体として考慮しても良いのではないかと思います。通勤時間帯以外については、その車両を例えば試験運行された路線に流用することも考えられます。そして、本市の持続可能な移動しやすい公共交通へ繋がる、今後のまちづくりにも不可欠な施策となるのではないのでしょうか。

川田新市長に問う！ 「財源確保」について

質問 川田市長におかれましては、就任1年目の予算編成になるわけでありまして、選挙期間中に訴えてこられた施策の実現のための財源確保の初年度でもあります。本定

例会に提案された補正予算案は11月就任というこ
ともあり堀口前市長が築
いたまちづくりを踏襲し
ての補正予算であり、自
身の政策は令和6年の第
1回定例会の当初予算で
示すとの会見でありまし
た。それは、川田市長に
とって大切な予算の編成
であります。そこで、こ
れから施策の実施に向け
ての財源の確保について
大局的にみてどのような
イメージをもっておられ
るのか、また、財源確保
の長期的な方針のお考え
をお聞かせください。

答弁 川田翔子市長 財源

確保については、生産年
齢人口の減少による税収
の減少や高齢化の進行に
よる社会保障関係経費の
増加、公共施設の老朽化
など様々な課題により今
後ますます厳しさを増す
ものと考えております。
このような財政状況の中
でも魅力と活力あふれる
まちづくりを継続的に

行っていたため、国
宝石清水八幡宮や背割堤
の桜など、市内の資源を
生かした観光振興による
市内経済の活性化や新名
神高速道路の全線開通を
契機とした企業誘致の促
進による新たな雇用の創
出、市有財産の有効活用
などによる新たな財源の
確保を国や京都府と連携
して目指してまいります。



よりかず
ビジョン

今後も社会保障
費の増額並びに
人口減少による自主財源の
減収などからも、今まで以
上の新たな財源への施策展
開が必要となります。

川田新市長に問う!

「秋の文化財
一斉公開」について



質問

川田市長にお
伺います。おそらくで
すが、川田市長は、今年
の秋のこの紅葉の中で
文化財の一斉公開は初め
ての機会であったと思
います。

もし、ご覧になったの
であれば、来場された方
のおひとりとして所見ま
た、感想をお聞かせくだ
さい。

答弁 川田翔子市長

18日

土曜日善法律寺のライ
トアップを翌19日は正法
寺、単伝庵、八角堂、飛
行神社を見学させていた
だきました。本市にある
数多くの文化財は石清水
八幡宮の神仏習合と分離
の歴史に繋がっており、
八幡ならではの観光資源
であると再認識しました。
また、善法律寺で伺った
南都仏教や京都の大寺院
との繋がりからは、本市
が果たした近畿の結節
点としての役割の大きさへ
の思いを新たにしました。
美しい花手水をはじめ
とするおもてなしも印
象的で、社寺の皆さま
が一丸となって取り組
んでいたいただいているこ
とに、感謝申し上げます
と思います。今後この
ような貴重な資源や、



よりかず
ビジョン

イベントの情報発信を
積極的に行ってまいり
たいと考えております。

文化財は保存の
時代から、保存
と活用時代へと変わ
りました。活用さ
せていただくこ
との大切さと、地
域で守られてき
た自然。そして
地域の美味しい
食べ物すなわ
ちその地域の「食」
ではないかと思
います。このこ
とは、よ
り地域経済に
繋がって
くるもの
と考え
ます。

また、2025年には大阪
で、日本国際博覧会、大阪
西万博が開催され国内外
からも多くの方が日本の
文化にまた、京都の文化
に興味をもたれ、開催
地から近い京都府内
にもおいでになるで
しょう。

市長のご答弁にあり
ましたように八幡なら
では観光資源を積極
的に発信されること
により、多くのリ
ピーターの心に繋
がることになり
ます。

八幡市議会議員

奥村よりかず 事務所

〒614-8024 八幡市八幡双葉10番地の5

携帯 090-3263-1519

<http://yorikazu.com/>



LINE公式アカウント



令和5年度所属

八幡市議会

- 総務常任委員会 委員長
- 令和4年度決算特別委員会 委員長
- 議会活性化特別委員会 副委員長
- 公報編集会議 委員

城南衛生管理組合議会

- 総務常任委員会 副委員長
- 令和4年度決算特別委員会 委員長